

識別番号 K 2
研究課題 Education with a Social Dimension
研究代表者 中野晃一（グローバル・コンサーン研究所・国際教養学部国際教養学科）
共同研究者 ホアン・アイダル（神学部神学科）、小山英之（神学部神学科）、三浦まり（法学部法律学科）、江藤淳一（法学部国際関係法学科）、阿部るり（文学部新聞学科）、幡谷則子（外国語学部イスパニア語学科）、田村梨花（外国語学部ポルトガル語学科）、下川雅嗣（外国語学部国際関係副専攻）、高島亮（外国語学部国際関係副専攻）、福武慎太郎（外国語学部アジア文化研究室）、村井吉敬（早稲田大学アジア研究所）（以上、グローバル・コンサーン研究所所員）

Summary A sincere desire to contribute to the welfare and creative progress of the world, as we share in the hope and suffering of the humanity, based on an acute awareness of the rapidly changing contemporary society, forms an integral part of the educational ideals of Sophia University. The Institute of Global Concern has been engaged in research, conscientization, and practical activities since its founding in 2010 (through the reorganization of the Institute for the Study of Social Justice), with a goal to build on and renew the traditions of the “Sophia School” that rejects the naïve objectivist tendencies of much of the mainstream social scientific research today by seeking to uphold the dignity and solidarity of humans in the globalizing world, standing “with Others.”
This year, the Institute of Global Concern chose “Education with a social dimension” as its overall theme. We explore the social role of universities in a world dominated by the logic of corporations and capitalist economy.

1. 本研究の目的及び背景

上智大学は、激動する現代世界に向かって広く窓を開き、人類の希望と苦悩をわかちあい、世界の福祉と創造的進歩に奉仕することを教育理念に掲げている。2010年度に社会正義研究所を改組し誕生したグローバル・コンサーン研究所は、こんにちの社会科学の主流を形成する客観主義アカデミズムの傾向に与することなく、他者とともに立つ（with Others）ことを旨とする上智学派の伝統の継承と刷新を目指し、グローバル化する社会のなかで人間の尊厳と連帯をもとめる指針を明確に打ち出し、研究や意識化、実践活動に取り組んできた。

今年度、グローバル・コンサーン研究所は「Education with a social dimension」をテーマとして掲げ、企業や経済の論理が席卷する現代において、大学の社会的役割を問い直すことを目的として研究活動を行っている。

2. 研究の方法・内容と共同研究員の役割分担

今年度グローバル・コンサーン研究所では、昨年度より引き続き「外国人移住者・移住労働者」「野宿者支援」「ジェンダー」「NGOとの連帯」また「就活教育問題」をサブ・テーマとして設定しており、それぞれの所員が各サブ・テーマに基づいて講演会・シンポジウム等の研究企画を開催している。

3. 研究の成果

今年度、上記研究テーマに基づいて以下の研究企画を実施した。

- ① ワークショップ「上智大学研究機構 東日本大震災緊急企画」
(NGO ワークショップ・シリーズ第3回)
「災害ボランティアを考える：NGOと大学の創発的連帯を目指して」
【日時】2011年5月14日(土) 10:00~17:00
【場所】四ツ谷キャンパス中央図書館 L-821
【講師】下田寛典(日本国際ボランティアセンター)ほか
- ② 絶望はしない、希望をつくる！難病患者から見た現代ニッポン
「困ってるひと—大野更紗 出版記念講演会—」
【日時】2011年6月24日(金) 17:30~19:30
【場所】四ツ谷キャンパス中央図書館 L-821
【講師】大野更紗
- ③ 世界難民の日シンポジウム「難民の地域での受け入れを考える」
【日時】2011年6月25日(土) 14:00~16:30
【場所】四ツ谷キャンパス中央図書館 L-821
【講師】本間浩(法政大学名誉教授/難民研究フォーラム座長)
- ④ シリーズ企画：大学は「社会を変える力」を養っているか？第1弾
『シューカツ教育』はどうダメなのか？～本気で学生を鍛える大学を目指して～
【日時】2011年7月8日(金) 17:00~19:00
【場所】四ツ谷キャンパス中央図書館 L-821
【講師】筒井美紀(法政大学キャリアデザイン学部准教授)

4. 今後の予定

第31回国際シンポジウム(ソフィアシンポジウム)を当研究所主催で開催する。テーマとして「Education with a Social Dimension: the Challenges of Globalization/教育は社会を再生する力をはぐくむか：グローバル化のなかの大学を考える」を掲げ、こんにち新自由主義を旗印に、日本を含めた先進地域と発展途上地域の双方で貧困や暴力などによる人間性の蹂躪が行われているなか、大学は、グローバルな視点から対抗の可能性を模索する実践活動と連携することができるのか、また教育研究活動を通じて、いかに困窮者たちの主体性と尊厳にむきあい、人間や共同体相互の連帯をもとめることができるのか、大学の社会的役割を問い直す。

【日時】2011年12月10日(土) 10:00~17:00(予定)

【場所】2号館 1702 会議室

【講師】フランシスコ・デ・ルー神父およびマーク・レーパー神父

そのほか、前期に実施した研究企画の後続企画として「打倒シューカツ！：シューカツの何が問題か？どう変えることができるのか？」や、足立インターナショナル・アカデミーの活動を紹介する講演会等を実施する予定である。